

オリンダ通信

第5号

「小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会」会報

共同代表：松本敏之、大倉一郎
 事務局：横浜港南台教会 秋吉隆雄
 〒234-0054 横浜市港南区港南台 7-8-29
 Tel 045-833-5323 Fax 045-833-6616
 郵便振替口座番号：00210-2-97571

力は弱さの中でこそ -Ⅱコリント 12：9

小井沼眞樹子

オリンダでの宣教生活も3年目に入りました。

皆様のお祈りとご協力によって支えられていることをいつも感謝しております。また、日本やサンパウロから届くお手紙やカード、印刷物にはとても励まされていますが、あまりお返事を書けず失礼しておりますので、この紙面で感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

私は昨年の一時期帰国を終えて現場に戻り、休む暇なく報告記の作成や翻訳、クリスマスから年末年始までの教会奉仕が続き、1月2日の説教を果たした後、床から起き上がれなくなってしまいました。それ以後、教会の奉仕を全部休んで休養しています。

昨年1年間ここに同居していた青年は、幸い連邦大学に合格して2月末に帰郷しましたので、3月からは広いアパートに一人暮らしとなりました。

私が弱さの中で過ごしている間に、日本では3月11日の大地震と津波による多大な被害に加えて、原発事故による放射能汚染問題が深刻化し、本当に状況が一変してしまいました。遠くにあつて、被災された多くの人々の苦しみ悲しみ、忍耐を想像し、また様々な形で展開されている救援活動を覚えて日夜お祈りを捧げています。

私の方は休養の甲斐あつて、最近では心身とも大分回復してきたように感じます。単純に体を動かす生活上の用事はこなせるようになりましたが、頭を使う仕事ももう一つというところで、集中できず思考がよくまとまりません。日本語なら幾らか読んだり書いたりしていますが、ポ語ではまだとても仕事に取り組む意欲がわからないので、ただ礼拝と祈禱会に参加するだけの日々を過ごしています。教会では、心をこめたお祈りと抱擁で弱い宣教師を慰め、受け入れてくださって、「宣教師は存在するだけでよい」という先達のことばが身に染みて有り難く思われます。

レシーフェ/オリンダは3月から雨期に入り、土砂降りの雨が断続的に降っています。雨の中、悪路をバスに揺られて1時間の往復にも、かなりエネルギーを消耗しますので、この通信を書き進めるのに随分時間がかかってしまいました。今、やっと仕上がりがほっとしています。

★思い返し、思い巡らす（詩編 143：5）

昨年、私は63歳の誕生日を迎えました。私の母が長い療養生活の末、生涯を閉じた年齢です。やはりとても感慨深く、介護生活の折節を思い起こしながら、自分の生涯の終わり方についてもずっと意識的に思うようになりました。

母の最晩年を在宅介護した私は、「どんな状況にあろうと人間は生きていてだけで尊い価値がある」という根源的ないのちのメッセージを受け取ったのです。

そこから、私の人生はまったく予期しない方向へと展開しました。夫の転勤によるブラジルとの出会い、第二の回心、献身への道。夫と共にブラジル宣教師となりサンパウロでの10年間の宣教奉仕、思いがけない夫の病死のあと^{ノルデスチ}東北伯へ単身赴任し、今日に至っています。

その間、ブラジルと日本の間を何度行き来してきたことでしょう。祈禱会の機会に「母は動けなかったけれど、私の存在のなかで母の永遠のいのちが働き続け、私をここまで動かしてきたのです」と証すると、イヴァン牧師も信徒たちもよく聴いてくださり、胸がいっぱいになりました。神さまのなさることは本当に不思議です。

晩年の母を思うと、自分がいま何もできずにいることが少しも厭ではなく、ゆっくりした時のなかで次から次へと観想し、守られていることを感謝し、すべての苦しみの中にある人々を思って祈ることを大切にしています。外を歩けば、日ごとのパンに困っている人が大勢いる中で、私には何もしなくても生活に困らないという恵まれた状況を与えられて、もっと、もっとイエスに倣い、謙虚に自分の献身の道を生きていかなければ、と心は燃やされています。



2月12日、アパートの窓から見た美しい「約束の虹」。

★ある母親の回心物語

今年の2月に歯の治療のため小さな手術を受け、医師の指示で抗生物質を服用したところ、薬物アレルギーを起こしました。日本ではそんなことは一度もなかったのですが、ブラジル人の薬はしばしば日本人には強すぎると言われています。すぐに飲むのをやめて様子を見ましたが、次々と全身に痒い湿疹が出て皮膚科に通院しました。他の薬も変えたり止めたりし、3ヶ月経っても未だに解決しません。そんな不調のさなかで、私のメニーノ(男の子)がまた問題を引き起こし、私は2晩一睡もできませんでした。彼の問題に巻き込まれる度にうつが悪くなるので、ついに精神科医から、向こう6ヶ月間は少年の世話をしてはいけない、離れているようにと申し渡されてしまいました。

彼の家は狭い2部屋に家族7人が寝るのがやっとで、調理の流し台も勉強する机もありません。彼の姉は、昨年7月に彼を自宅に戻さざるを得なくなった段階で家から出ていき、恋人の家に同居するようになりました。現在18歳で妊娠4ヶ月です。

こういう現実の中、実際、彼の世話を全部母親がすることになって、2ヶ月後にはとうとう彼女が私と同じように限界状況に突き当たってしまったのです。

礼拝前、早めに着いて教会の一室で休んでいる私のところに彼女が相談に来て、苦情と不眠を訴え「もうあの子に我慢できない、死んで天国にいるママイ(母)のところへ行きたい」と泣き出しました。私は彼女をしっかり抱きしめ「あなたの気持ちはよくわかるわ、わたしも同じだったから」と言いました。もう行き詰まりです。どうしたらよいかわからず思わず「イエスさま、助けて!」と祈ると、彼女は体を離して怒ったように言いました。

「神さまは私のことなんか忘れてるのよ、私の方をちっとも見ておられない!」。

「いいえ、神さまは決してあなたのことを忘れてはいないわ、いつも心配しておられるのよ。あなたこそ今まで一度だって本気で神さまに心を向けたことがある? 誠心誠意神さまを求めたことがある?」

使える単語を総動員して投げかけた私の言葉が、苦しむ彼女の魂に届いたようです。その週、彼女は祈禱会の終わりころに姿を現しました。次の日曜日には、礼拝開始から私のすぐ後ろに座り、時々涙を流しながら皆と一緒に賛美し、信徒の証を聞き、イヴァン牧師の説教を最後までじっと聞いていました。途中少し遅れて、家を出た娘も来て母の隣りに座っていました。

力強いメッセージの後、牧師は会衆に向かって語りかけました、「今晚、み言葉を聞いてイエスさまを救い主として信じよう、または長く離れていたけれどももう一度イエスさまとの約束をやり直そうと思う人は、前に出て来てください。あなたのために教会の皆さんと一緒に祈りたいと思います。」

この招きの言葉が終わるや否や、すくっと立ち上がって彼女が前に出て行ったのです。私はびっくりし、すぐには信じられませんでした。もう一人女子高校生が出ていき、そして最後には彼女の娘も前に出ていきました。

彼女たちと親しい教会員と一緒に私も前に立ち、肩に手を置いて、牧師と一緒に祈りました。それから3人が、牧師の導きにそって一人ずつ信仰を言い表す祈りをささげました。なんと喜びと感動に満たされたひと時だったことでしょう!



それ以来、彼女は教会生活を怠らず、ある晩の祈禱会でこう話しました。

「イエスさまとの約束をやり直すようになったら、まるで別の人間になったみたいです。もうお酒や、賭けごとの虜にはなりません。皆さんといっしょに賛美し、聖書のことばを聞いていると、とても心が平安になってきます。」

聞いていて、嬉しくて涙が出ました。神が彼女をとらえ、彼女の中に新しいいのちを創造しておられる! 顔つきも変わってきました。なによりも、問題の息子に手を焼くあまり、母親自身が彼に悪態をつけて余計に事態を悪くしていた、その悪い流れが変わってきたのです。少なくとも母親らしい振る舞いや気遣いが現れてきました。すると少年自身の態度も落ち着いてきたように見えます。

去年は学業には全然身が入らず、授業をさぼったり、悪ふざけをして、先生や学友に迷惑をかけ、成績は進級すれすれの低空飛行でした。ポ語だけは合格点に達せず、2月の新学期に入るとすぐに再試験があるというので、1月の休暇中に高い授業料を払って個人授業をしてもらいました。補習の甲斐あって、次の試験で進級を認められほっとしました。

8年生になってからは、私生活の悪行とは反対に、学習態度は良くなり、授業中、彼の意見を友達が注意を払って聞くようになったそうです。リセウ校で生徒の世話をしているイエズス会の修道士(ブラザー)が私に協力し彼をよく見ていて、時折報告して下さいます。最初の試験では殆どどの科目の得点が急上昇しました。

ただし、これですっかり彼の問題が解決したわけではないことがすぐに現れました。試験の結果が良かったこ

とを私にコレクトコールで知らせてきて、自分の誕生日にカメラを買って欲しいと言うのです。ある事件があって、誕生祝いは1ヶ月前にすでに買い与え、解決させたのに。私は次の日曜日に彼の家を訪ね、二人きりになって論じました。勉強は自分のためにするのであって、母親や私を喜ばすためではないこと。良い点を取ったことで何か褒美を期待するのは間違った態度であること。健康を害している私にいきなり電話してきて、挨拶や気遣いの言葉を何も言わず、自分の願望だけ言って直ぐに電話を切る態度は、大変不躰けで自己中心的であること。

「こういう態度では将来人間関係がうまくいかない。それを心配して忠告するのよ、今まで誰もそういうことをあなたに教えてくれる人がいなかったのではありませんから」

彼は私の助言を大人しく聞き「ごめんなさい、マキコ」と言いました。次に買って欲しい物が出てきたときには初めに「お元気ですか？」と挨拶したので、まずまずの効果が現れています。しかし、まだまだ私を「お金を引き出すマシン」のように思っている節が見え隠れしています。

医師からも友人からも彼から離れるようにと言われても、現実的にはそういう具合で、関わらざるを得ないことがあります。けれども、彼の中でも何か変化が始まっているように見え、希望を持って彼の成長を祈り続けています。

★成長してきたアルト・ダ・ボンダーズ教会

個人的な物語を細々と綴りましたが、アルト教会の方は、私が身を引いていても、昨年から今年にかけて素晴らしい成長ぶりを見せています。

ひとつは、皆さんから寄せられた音楽献金の効用が明確に現れてきて、教会を活気づけていることです。

マイクやスピーカーなどの音響設備を整え、練習用ギターを増やして生徒たちが家で練習できるようにしました。

さらに今年初めに若者の希望を取り入れてドラムセットを購入したら、礼拝賛美は一段と盛り上がり、私は慣れない大音響に耐えながら喜んでいきます。



また、ドラムをたたく青年を講師に頼み、ドラム教室を新たに開始。エレクトーンも教えられると言うので中座していたエレクトーン教室も再開して音楽活動はとても充実してきました。10歳位から中年の大人までの生徒たちが喜んで参加しています。わずかの月謝を払うことになっていますが、実際は払えない家庭が多く、音楽活動継続のためには皆さんからの献金が有効不可欠の手立てとなっています。感謝！

二つめは、イヴァン牧師と信徒リーダー2人で構成されている宣教牧会委員会(仮名)の考案によって、奉仕グループの組織化が進められ、より多くの信徒が教会活動の責任と仕事を分担するようになってきたこと。

三つめは、イヴァン牧師が任命されているもう一つの教会、カイシャダグア教会と協同して月に2回、土曜日に青年礼拝を行うようになったこと。この礼拝は青年たちが主体的に企画し、説教も担当しています。

引き潮のように私が後ろに下がっていくと、それに反比例するように、信仰共同体の中にはいのちが満ちてきて「わたしたちの内には死が働き、あなたがたの内には命が働く」というパウロの言葉(IIコリント 4:12)を思い起こしています。

施設献金のお願い

今年は教会や保育園の改築や補修のために使う施設献金に、皆さんにご協力をお願いしたいと思います。現時点での具体的な計画は以下の2件です。

- 1 教会の床タイルの張り替え—できれば9月の創立感謝礼拝までに実施したい。→「**タイル献金**」

総面積108m² 見積もり:8,100へアイス=約40万円(1m²につき3,500円)

協力方法:1m²を1単位としてご協力をお願いいたします。

(アルト教会の信徒は約30人。教会員で賄えるのは4分の1程度でしょう。)

- 2 保育園を含むコミュニティー・センターの建設計画(詳細は次号で紹介) →「**センター献金**」

ルデスチ教区管轄のプロジェクト。総工費見積もり約450,000へアイス(=2,200万円)

アメリカのメソジスト教会が8月に18名の建築ボランティアグループを派遣し、工事人件費(約1,000万円)を節減。建設材料費についてブラジル全土に募金を呼び掛けます。日本の教会も一部分担したいと思いますが、震災後の困難な状況に直面しているため、目標金額は立てず募金は数年続けていきたいと思っています。

どうぞよろしくご協力をお願いします。

会計報告 (2010.4.1～2011.3.31)

金額は全て省略

収入の部

支出の部

項 目	金 額	項 目	金 額
会費・特別献金		支援金 (通常)	
音楽・施設献金		支援金 (音楽・施設献金)	
		海外保険	
		「福音と世界」1年分(ブラジル直送)	
		事務・通信費	
		振込手数料	
		会堂使用料	
		報告会茶菓代	
		支援者へ返金	
小 計		小 計	
前期より繰越 (通常)		次期へ繰越 (通常)	
前期より繰越 (音楽・施設献金)		次期へ繰越 (音楽・施設献金)	
合 計		合 計	

会計担当：K. Y

年会費・特別献金者名 (敬称略・順不同)

氏名は省略

(134 件)

音楽献金者名

氏名は省略

(26 件)

編集後記

昨年 10 月に H. Y さんより会計を引き継ぎました、K. Y です。会計の仕事は初めてですが、教えて頂き、楽しみつつ苦しみつつ会計をしています。眞樹子先生のお働きのお手伝いをさせて頂き感謝です。4 月 29 日、O. T さんに会計監査をして頂き承認を得ました。丁寧に細かくご指導を頂き感謝致します。会計を担当して感じた事は、各地から多くの献金が届き、眞樹子先生のお働きの素晴らしさを改めて感じました。これからも眞樹子先生の御健康とお働きの上に、神様のみ恵みと御祝福が豊かにありますように、心からお祈り申し上げます。

MAKIKO KOINUMA

住所省略

BRASIL

TEL : 55- 81-*****-****